

ER タンパク（免疫組織化学染色）		P000006		
		担当部署		
ER		病理		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項		該当なし		
オーダー手順	1	サイボウズ→ファイル管理→54. 病理診断科→遺伝子解析依頼申請書→		
	2	電子カルテ→指示②→病理組織検査→		
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		1) 10%中性緩衝ホルマリンの固定時間が6時間未満 72時間以上 2) 未染スライドで6週間以上放置されていたもの 3) コーティング加工がされていないスライドガラス		
検査受付時間		8:15~16:00		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。		
検体採取の特別なタイミング		治療前		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 未染スライドガラス	該当なし	該当なし	1	枚
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		該当なし		
検体受入不可基準		破損したスライドガラス		
保管検体の保存期間		スライドガラス：半永久 * 保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡		
検査結果・報告				

検査室の所在地		病院棟 3 階 病理診断科				
測定時間		2 ～ 3 日				
生物学的基準範囲		該当なし				
臨床判断値		『臨床・病理 乳腺取扱い規約 第 18 版』を参照				
基準値					単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		<p>ER は乳がん患者の予後の予測及びホルモン療法の適用の適否を 診断する上で、有用な情報となる。乳がんは女性に最もよくみられる 癌であるが、早期発見により適切な治療が行われれば生存率は著しく上昇する。1967 年に Jensen らにより、乳がん組織中 ER の測定が内分泌療法効果の指標として有用であることが示唆された 2)。その後、ER、プロゲステロンレセプター(PGR)がホルモン療法効果のよい指標となることが明らかとなり、進行・再発乳がんの治療のみならず術後補助ホルモン療法にも広く臨床応用されるようになった。</p>				